

久しぶりの京都旅行

斎藤 肇

二回目のワクチン接種も済んだし、久しぶりに京都に行ってみようかと8月初旬にJTB旅物語の「秋の京都旅行：3泊4日フリーコース」に申し込んだ。幸いにも11月になってコロナの感染も全国的に収まってきたこともあり予定通り11月28日に京都に向かった。12時東京発の新幹線だったので京都に着いたのが14時半頃、堀川五条の京都東急ホテルにチェックイン後、比較的近い「清水寺」に行くことにした。市バスを使って清水道というバス停で降りて清水の坂を登って行ったが天気も良く日曜日ということもあり観光客で一杯だった。修学旅行生はそれ程多く見かけなかったが若い人達が多く着物姿の若い娘は素敵でしたね。夕方だったので日没の清水寺を見ようと寺の回廊は人であふれていた。コロナなんて関係ないという状況でした。ただ紅葉は最高でした。



清水寺



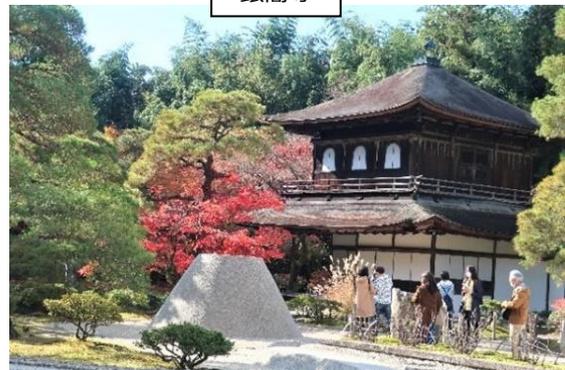
その日は他に回れないので、河原町・祇園近辺で食事しようと京都懐石料理屋を探したが、予約なしでは入れずビルの最上階にあるレストラン街で京都料理を見つけ食事した。やはり結構な値段だった。

二日目、天気も良く暖かい日になった。まず、ホテルのシャトル便で主要バスが発着する京都駅に行った（10分弱）。市バスの日券が700円で乗り放題なのでそれを購入し、今日の最初の目的地の「銀閣寺」へ行くバスに乗車した。約40分程で銀閣道というバス停に到着、哲学の道をゆっくり散策しながら銀閣寺向かった。観光客は昨日と違って大分少なかった。銀閣観音殿、円錐台形の砂盛り向月台、白砂が段形に盛られた銀砂灘、苔むした庭園を散策。

室町幕府8代将軍・足利義政が造営に着手した山荘でその後禅寺となり質素ながらも気品の漂う東山文化の象徴で素晴らしかった。ここに来たのは高校の修学旅行以来だ。

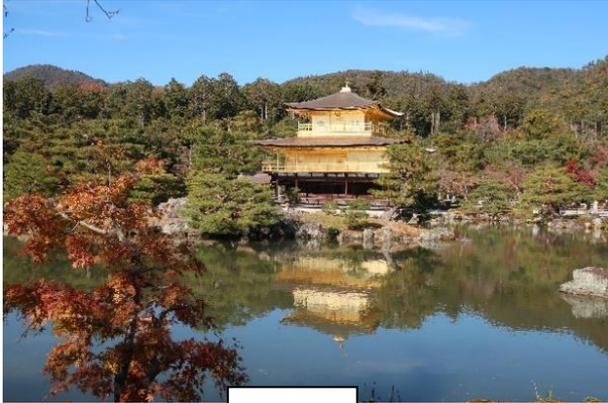


銀閣寺

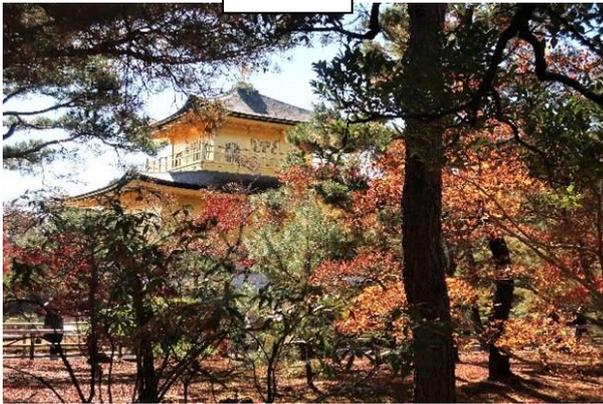


バス停に戻り、大原三千院に行こうとしたがそのバス停からは三千院行のバスはなく、何処かで乗り換えて行かなければならないようなので「金閣寺」行きの市バスに乗った。確か40～50分程乗ったような気がする。金閣寺の駐車場には何台かのバスが駐車していて修学旅行生やツアーの観光客で銀閣寺周辺より人が多かった。金閣寺は足利義満が極楽浄土をイメージして造営したが後に禅寺となり、武家と公家の文化を融合した豪華な北山文化の象徴とされた。

金閣舎利殿は昭和30年に金箔を使って補修されたので晴れた日の写真には映えるが、私は落ち着いた上品さが漂う銀閣寺のほうが気に入った。庭園を散策していたら抹茶を振舞うお店（茶室風）があったので立ち寄り、前庭の縁台で抹茶とお菓子をいただいた。歩き疲れていたのでおもしろかった。



金閣寺



金閣寺を見終わってから「龍安寺」を目指した。「きぬかけの路」を通して歩いて30分程で行けるというので歩き出した。昼過ぎていたので途中で湯葉入りのうどんを食べたが、うどんにこしがあり汁もダシがきいていておいしかった。きぬかけの路は衣笠山の麓をカーブを描きながら走る全長3km弱の路で金閣寺から仁和寺まで続いている。この路は結構アップダウンがあり立命館大学の脇を通りながら龍安寺に着くまでに1時間位歩いたような気がした。結構きつかった。



龍安寺は1450年に細川勝元が創建。敷き詰められた白砂の中に大小15の石が配された方丈の前庭は七・五・三の庭ともいわれ禅の教えを表現した名庭として有名である。方丈の縁側に腰掛けてこの庭を見つめていると疲れがとれ何か心が落ち着いてくる気がした。方丈の裏側には「吾唯足知」（われただたるをしる）という釈迦の言葉を図案化したつくばいがあった。水の落ちている四角の部分が4文字の口の部分を表し、上が吾、右が唯、下が足、左が知と読めるように作られている。面白い。



龍安寺



つくばい

龍安寺を出て「仁和寺」まで頑張って歩いた。仁和寺は真言宗御室派の総本山で（我が家は真言宗智山派）代々皇族が住職を務めたお寺で入口の大きな山門や金堂が有名である。金堂の入口には大きな松の木があり一本の木から何十畳もあるような見事な枝ぶりだった。また金堂の回廊から見える五重の塔も紅葉の中に見事に映えていた。この金堂では挑戦者藤井聡太さんと竜王豊島将之さん間で第34期竜王戦が行われたようだ。



仁和寺



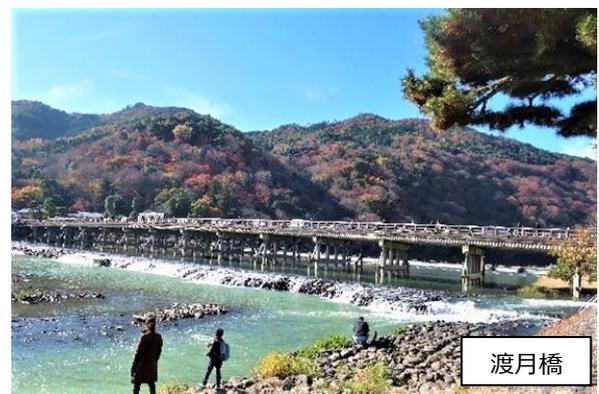
帰りは御室仁和寺駅から嵐電北野線で京都撮影所駅（東映太秦映画村がある）まで行き太秦駅でJR嵯峨野線乗り換え京都駅に向かい5時半頃着いた。その日は京都駅のレストラン街で豆腐料理店を探し40分位待つて入ることができた。日本酒とマッチしておいしかった。

三日目、連日の歩いての散策で疲れが出ていたが嵐山方面に行くことにした。京都駅からJR山陰線の嵯峨線に乗り、約30分程で嵯峨嵐山駅に着いた。そこからトロッコ電車に乗る手もあったが、歩いて竹林の道を通って天龍寺に行くことにした。竹林は今でも青々としており、その道は静かで葉がすれの音など別の所に迷い込んだような心が洗われるような気分になる。私も広い竹林を親から引き継いだが毎年の伐採作業が大変で大分前に業者に頼んで全部伐採し、根まで抜いてもやしてしまった。今は畑になっている。この道は「天龍寺」の北門に通じているので北門から天龍寺に入った。天龍寺は臨済宗天龍寺派の総本山で足利尊氏が後醍醐天皇の菩提を弔うため創建した。庭園と法堂の天井に描かれた雲龍図（撮影禁止）が有名である。どこから眺めても睨まれているように見え、「八方睨みの龍」とも呼ばれている。



天龍寺

天龍寺の正門を出て「渡月橋」に向かった。道の両側にお店が連なっており修学旅行生も含め観光客で一杯だった。



渡月橋

渡月橋の近くのバス停から西芳寺行きのバスに乗った。西芳寺は境内一面を覆う苔の美しさから「苔寺」として親しまれている。修学旅行で行ったときの思い出があったので

ぜひ拝観したいと行って見たが現在は庭園を維持するため事前申込制になっており残念ながら入ることができなかった。昼食後、近くの「華嚴寺（鈴虫寺）」に行った。

3000匹程の鈴虫が7箱に分けて入っており1年中鳴いている（1年中鳴かすようにするには長年研究したらしい）。この鈴虫の声（羽をすり合わせている）を聞きながら60～70人程は入れる座敷で住職の鈴虫説法が約30分程行われる。なかなか面白い説法で人気がある。「慈肅陽静」（コロナ下の自肅要請にひっかけて）の各々4文字の意味、大切さを面白可笑しく話してくれた。

京都駅行きのバスに乗り途中に二条城近くのバス停があったので疲れていたけれども二条城に立ち寄った。二条城は徳川家康が京都御所の守護と将軍上洛の宿泊所として築いたお城で慶喜が大政奉還の意思を表明した舞台として有名である。大広間、遠侍、式台老中の間、白書院など部屋がある。庭園を散歩して今日の観光は終わった。

最後の日は15時の新幹線で帰る予定になっていたので京都駅周辺の「三十三間堂」と「伏見稲荷大社」に行った。

三十三間堂は一時焼失したが御嵯峨上皇によって現在の本堂が再建され中尊丈六千手観音座像、1001体の等身大・千手観音像、これらを守護する風神・雷神像、観音二十八部衆像が並ぶ様子は圧巻であった。丁度、住職と数人のお坊さんの読経を30分程聞くことができた。



最後の観光場所となった伏見稲荷は全国に約3万社ある稲荷神社の総本宮で五穀豊穰、家内安全の神様として信仰を集めている。また本殿背後から連なる朱色の「千本鳥居」は有名で山の頂上までつながっているがとてもそこまでは行けないので途中で引返してきた。そしてゆっくりと京都駅まで戻り京都のラーメンを食したがいろいろな唐辛子の辛味が効いておいしかった。

こうして三泊四日の京都旅行は終わったが天気にも恵まれ行きたいと思っていたところは回ることができた。しかしまだまだ京都内に観光名所があちこちにあるので健康で歩き回れるうちにもう一度計画してみたい。